

「正しさを失うな」 ～主にあって堅くされる～

エゼキエル2：8～3：22

1964年開通した新幹線ですが、開発当初は在来線の線路を利用することを考えられていました。しかしそれでは、速いスピードに耐えられず、うまくいきませんでした。そこである人が「在来線の線路を使わなくてもいいのではないか」と言い、それを技術者が聞くことで新幹線が安全に利用できるようになりました。このように、聞く耳があるかどうかで大きく違いがあります。男性と女性においてもたくさん違いがあります。男性は聞かえている情報を分析する能力があります。その情報の源は何か。意図は何か…と探っていきます。従って、相手の言っている事は頭に残らなくなります。これは日曜日や水曜日に語られるメッセージにおいても同様です。情報を分析しているあまり本来聞かなければならない事が聞けずになります。女性は感情で判断します。ですから自分に優しい気持ちを持っている人の話しは聞くことができますが、反対の場合は聞くことができません。男性と女性がコミュニケーションをとる場合、違いを理解して会話をすると共に、自分に語っている神のメッセージに対してはしっかりと聞けるように準備しておかなければいけません。人は聞くことができなければ、変化する事ができないからです。聞く事ができない根本の原因は自己中心です。自分の経験したことや思考できる範囲以外の話しは聞く事が困難な傾向にある男性と自分の気持ちだけで聞く気がなくなってしまう傾向にある女性。この自己中心を捨てて聞く努力が必要です。今日の聖書箇所には3種類の人が出てきます。①聞かない人。これは民衆の事です。預言者のメッセージすなわち神からのメッセージを聞く気がなく、聞かなかったのです。②恐れる人。これは聞いて行おうとするが、相手の反応を恐れていて行動できない人。これはエゼキエルのことです。ですからエゼキエルは7日間躊躇していました。③聞いて心を治める人。これもエゼキエルです。エゼキエルは7日もの間、神のメッセージを伝えませんでした。神に押し出されて語りました。このように何が大切であるのか、聞いて恐れている感情を治め、行動する事を神は願っています。私たちは現在どの段階にいるのでしょうか。聞く段階であれば、しっかりと聞きましょう。恐れてできていないのであれば、感情を治めていきましょう。注意をしたいのは理由もなくやっていないのは聞けていない事です。聞いた内容をしようとするが、恐れているのとは全く違います。エゼキエルの意味は“神が堅くした”なのです。しかしエゼキエル書には「人の子」と90回も出てきます。これは何を意味しているのでしょうか。神は私たちが人の子であり、弱さがある事も知っているが、神は弱さの中に働き、堅く立つ事できるようになる事を意味しています(Ⅱコリ 12:9) エゼ3：7には心がたたくと出てきます。心がたたくと“あつかましく”なります。このあつかましい状態とは良くありません。あつかましいとは聖書の中では“恥知らず”“罪に対する開き直り”という意味です。自分の中に頑なさを持っていると自分の罪、弱さを認める事ができなくなります。これは弱さのうちに働く神を否定することになります。この罪、弱さを認めてこそ、初めて聞くことができます。これが聖書が言っている正しさです。この正しさとは贖い(十字架)の恵みが備えられたという意味です。自分の行動を悔い改め、救いが予定されている事が主にある正しさです。主にあって堅くされるためには自分の弱さを認め、主の言葉を聞ける状態になることです。これが私たちの土台になっていなければ、人に対して教える事ができません。ですから神ある正しさを失わないために①谷間に行け!!!**(定冠詞付)**これはいつもの谷間へ行く事です。谷間とは静まっている所であり、主と会話するところです。エゼキエルはいつも決まった場所を設けていました。私たちも決まった場所を設け、自分を見つめ直す場所が必要になるのです。その中で神の語る事を聞き、伝える相手の事を思い起こし、どのように伝えるのか神に聞くのです。その時間は自分をリフレッシュすることもできます。これがないとその日暮らしのように、行き当たりばったりような生活になってしまいます。②聞く。巻物を食べよ。甘い。エゼキエルは哀歌と、嘆きと、悲しみを食べよ言われました。それは人にとっては辛いことです。しかし食べたエゼキエルは蜜のように甘かったと表現しています。このように私たちによって聞く事は良い言葉だけではありません。時に辛いことも聞かなければなりません。しかし聞いて苦いのではなく、甘いのです。どんな言葉でも聞きましょう。③見張る。自分と周りを。谷間で聞いた後、まずは自分がこのままで良いのかを見張りましょう。自分の歩みはずれていることはないか。自分の都合で歩んでいないか。自己中心がないのか。見張りましょう。そして周りを見張りましょう。私たちの周りにいる人に伝える事があれば、伝えていきましょう。伝えなければ、その責任は自分に返ってきます。自己中心からではなく、相手の幸せを考えて伝えましょう。そのためにも決まった谷間に出て、何を伝えるのか聞く必要があります。自分のプライドを捨て主にあって正しさを持ち、神によって堅くされていけば、聞くことができます。聞いたら伝えるために行動するだけです。周囲の祝福の基となれるように歩んでいきましょう。